

## 博報財団 第13回「博報日本研究フェローシップ」成果報告書

## I. 研究成果概要

氏名(フリガナ)	ALAM Mohammed Ansarul (アラム モハメッド アンサルル)
在住国名	バングラデシュ
所属・役職	ダッカ大学現代言語研究所・准教授
招聘回(招聘研究期間)	第13回 (2018年9月1日～2019年8月31日)
受入機関	国際交流基金日本語国際センター
招聘研究テーマ	在日バングラデシュ人が直面する問題に焦点を当てた調査研究 ーバングラデシュの日本語学習者のためのケース教材の作成を目指してー
研究目的	在日バングラデシュ人が日々の日常生活の中で日本人と接触する際に遭遇した問題 やコンフリクトの事例を収集し、それを基にケース教材を作成する。
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか(具体的に)</p> <p>在日バングラデシュ人やバングラデシュ人に接触している日本人にインタビューを行い、ケース教材を作成した。必要があれば、フォローアップ・インタビューを行い、加筆修正を行い教材を完成させた。その後、作成した教材を使い、実験授業を行い、グループの話し合い活動の録音データと授業後に行ったインタビュー調査の音声データを分析し、ケース教材の真正性と妥当性を検証・確認した。教材作成の手順は、以下の通りである。</p> <p>「在日バングラデシュ人に対する半構造化インタビュー調査」→「コンフリクトが見られるエピソードの文字起こし」→「教材にできそうなエピソードを内容分析」→「ケースライティング」→「フォローアップ・インタビューと試用(実験授業)」→「修正・完成」</p>	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ダッカ大学のIMLの4年生を対象にした「目的別日本語」の主教材として導入できる目途がついた。</li> <li>▶ ダッカ大学の4年生が将来、留学や就職などで日本で生活する際に直面する可能性のある、具体的な問題(ケース)を素材に、「批判的思考」「問題発見・問題解決」「異文化間コミュニケーション」などのスキルを向上させることができる。</li> <li>▶ 日本での就職が決まっている「技術者の現地研修等、将来、訪日を考えているさまざまなバングラデシュ人に対する「ケース学習」の基盤を提供することができる。</li> <li>▶ ケース学習のディスカッションを通じて在日バングラデシュ人も「問題の所在」「問題解決」「異文化理解」の能力が育成されるとヒントが得られた。</li> <li>▶ 今、日本に留学・就職している在日バングラデシュ人から、今回の実験授業で自分たちが取り組んだケース教材を用いた授業を来日前に受けられたらよかったというフィードバックが得られた。</li> <li>▶ 上記を踏まえて、バングラデシュ人日本語学習者にどんな教材でどう指導すればいいのかについてのヒントが得られた。</li> </ul>	
<p>3. 研究成果(予定を含む)</p> <p>○論文(題目, 掲載誌, 発行者, 掲載月, 内容の概略(200字以内))</p> <p>・アラム モハメッド アンサルル(2019)「バングラデシュ人日本語学習者のためのケース教材作成の試み」『日本</p>	

言語文化研究会論集』第15号、国際交流基金日本語国際センター・政策研究大学院大学【採用】

内容の概要:

本研究では在日バングラデシュ人が日々の日常生活の中で日本人と接触する際に起こっているコンフリクトを題材にケース活動を行った場合、学習者にどのような学びが生じるか、その実態を探った。そして、使用したケース教材の改善点と、教室で用いる際の注意点について考察し、海外の高等教育機関でのケース教材の実用化の可能性を探った。その結果、学習者は、問題の所在や問題解決方法について、様々な意見を出し合い、議論を重ねる中で新たな気づきや発見を得ていた。

○口頭発表(題目, イベントの名称, 日・場所, 内容の概略(200字以内))

・「バングラデシュにおける日本語教育の現状 ～最新動向に焦点を当てて～」『第34回 日本言語文化研究会』国際交流基金日本語国際センター、2018年12月01日

・「バングラデシュ人が日本で直面する文化の違いと課題 ～受入れに向けて～」『「日本語×IT インターンシップ」第2期生修了式』宮崎大学、2018年12月12日

・「Constructing Social Relationships by the Bangladeshi Residents in Japan」『バングラデシュ人留学生向け特別講義』宮崎大学、2019年04月26日

・「在日バングラデシュ人職業人の実態」『学部生学習者向け特別講義』静岡文化芸術大学、2019年05月13日

・「在住外国人の日本語課題と支援～在日バングラデシュ人の事例を基に～」『宮崎大学420単位時間日本語教員養成プログラムキックオフシンポジウム』宮崎大学、2019年07月06日

・「バングラデシュにおける日本語教育 ～ケース教材を使用した授業の可能性～」『プロフェッション教育研究会第二回大会』東北大学東京分室、2019年07月29日

○その他の活動

・2018年11月27日:「ケース学習ミニ勉強会」に参加。会場:麗澤大学大学院(プラザ棟東京)

・2019年06月～07月:「ケース学習研修」を受講。主催:BPC 研修サービス(東京)

・2019年07月12日:「外国人材の本音がわかる採用・定着率UPセミナー」に参加。主催:日経HR

#### 4. 今後の活動予定

➤ 2019年10月～12月

    JLPT N3レベルのボランティアを募って、作成したケース教材の試用

➤ 2020年1月～3月:ケース教材の修正

➤ 2020年7月以降:

    ダッカ大学 IML の4年生の授業で実際に使用

    【学生の日本語レベル、レディネス等に合せて、ケース教材の内容、レベル、長さ、授業方法を調整しながら使用。】